



一中だより

学校教育目標 自主・琢磨・敬愛

目指す学校像「笑顔と活力あふれる学校」～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

「行為の意味」

校長 岡島 一恵

立春を過ぎ、暦の上では春。ここの所、2月の初旬とは思えないほど暖かな日が続いていて、我が家の梅(ろうばい)は既に満開となっています。予報では、また直ぐに冬の寒さが戻ってくるとのこと。「早春賦」という音楽の教科書に掲載されている唱歌がありますが、暦の上では立春を過ぎて、まだまだ風は寒く、春が来そうでなかなか春にならない状態への心のジレンマを詠っています。年度の終了に向けての寂しさと新たな年度への期待感とで入り混じった今の季節と歌詞の気分がとても似ていて思わず口ずさんでしまう歌です。今年度も残す所約2ヶ月。春の訪れへの希望を感じると共に、今年度の仲間との解散の日が少しずつ近づいている寂しさも感じずにはられません。

今年度の最後の約2ヶ月を大切に過ごしてほしいと思い、今月の学校朝会では、3年生の学年だよりにも掲載されている宮澤 章二の「行為の意味」を生徒たちに紹介しました。周囲に目を向けると、この川越第一中学校でも、命が吹き込まれた行為としてわかる場面や場所が沢山あります。朝のさわやかな挨拶、だれも引き受けたがらなかった掃除の仕事分担を引き受けてくれる子、困っている友達への優しい声掛け、その場面には遭遇できなかったけれど、きっとお掃除の時間一生懸命磨いているであろうトイレの床。実は、先日同行した2年生の修学旅行でも、思いやりのある声掛け、自分がやらなければと一肌脱ぐ場面、誰かの代わりや余分に頑張っている姿…。心や思いを形にしている仲間がここ川越第一中学校には沢山います。そこに少しの勇気も必要なのかもしれないけれど、一人一人が優しい思いやりのある心や思いを行為に表すことで、学年、学級、生徒たちの空間がもっと温かく、誰にとっても居心地の良い、そして、3月の解散の時に、離れがたい場所になるよう願っています。

朝会の生徒の感想より

思いやこころは見えないけれど、思いやりやこころづかいは見えるということについて、逆に言ってしまうと、思いやこころは行為に出さないと伝わらないということだから、行動する力は本当に大切なんだなと思いました。

(1年)

私は、冬が終わり、春が来るとされているこの季節は、とっても不思議な気持ちになります。4月から新しい年度が始まるので、あっという間だったなという感覚にもなります。しかし、今年は春に別れも出会いもあり、不安と前向きな気持ちが混合しているような気がします。私はどんな環境でも、やさしさや温かさをまわりと感じさせられるような人になりたいです。

(3年)

「思い」と「思いやり」、「心」と「心配り」は、どちらも、ただ自分の中にあるだけでは、誰かに伝えることもできないし、感じることもできないから、実際に、思いやり、心配りといった行動にしていかなければならないと思いました。

(1年)

今回宮澤章二さんの詩を聞いて思いやりの行為、優しい行為ってなんだろうと改めて考えることができました。今後自分がどんなふうに過ごすべきかしっかり考えて残りの時間過ごしたいです。

(3年)

行為に関する詩の事について、こころづかいや思いやりで自分も相手も温かい気持ちになれると改めて思いました。周りをよく見て友達を思うなど自分ができることは積極的にしていきたいと思いました。

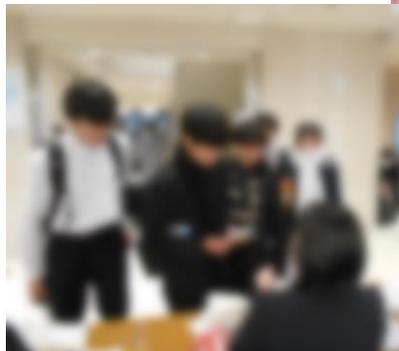
(2年)

「こころは見えない」が「こころずかい」は見えるという言葉がとても心に刺さった。

たしかに人の心は見えないが、その人の行動からは心遣い、性格がわかる。だからこそ私も心遣いができるような人になりたいと思った。

(2年)

2年生修学旅行



1年生理解教育



1月25日～27日に2年生の修学旅行を実施しました。「緒支 歓秩 ～緑の集大成～」というスローガンを掲げ、皆が楽しめる修学旅行を目指し、実行委員会を中心にお互いに配慮しながら、協力し合い、京都、奈良の文化を味わうことのできた修学旅行だったと思います。自分の役割を責任もって行ったり、マナーや礼儀を考えて行動したり、皆で盛り上がった演芸大会だったり、2年生のいいところを沢山見つけた修学旅行でした。

家庭科の調理実習に地域の方々にお手伝いいただきました。
ありがとうございました！

本校特別支援コーディネーターの7組主任〇〇教諭が、1年生を対象に障害等の困り感を抱えている人についての理解教育を実施しました。以下は生徒の感想の一部です。

- 世界には様々な人がいることがわかりました。もし困っている仲間がいたら手を差し伸べられるような人になりたいです。スライドの最後の方にあった公平や環境の話、私はそれを聞いて、見て私達生徒は環境を変えるなど大きな事はできないけど公平にすることはできるんじゃないのかなと思いました
- その子の性格や特徴によって嫌だと思ふことの違いやその子にしか見えない世界があるということを改めて学びました。これからも様々な個性を持った人がいることを理解して生活していきたいです。

